

気体検知管【北川式】使用時の注意点

実験方法

- ①気体検知管の両はしを付属のチップカッターで折り取り、気体取り入れ口(矢印の逆方向)のはしに保護ゴム管をつける。
- ②検知管の矢印をポンプの方向に向けて取り付け、調べる気体の中に検知管の先を入れる。



- ③ハンドルを完全に押し込みガイドマークを図のようにあわせる。
- ④ハンドルがロックされるまで、一気にまっすぐ引く。
- ⑤所定の測定時間を待って、目盛りを読み取る。
- ⑥測定が終わったら、ハンドルを180度回し、本体に押し込む。



注意点

- 必ず**安全めがね**をかける。
- 気体検知管の**切り口**で**けが**をしないようにする。
- 酸素用検知管は熱くなる**ので冷めるまで直接さわらない。
- 気体検知管は**矢印の向き**に注意して正しく取り付ける。
- 気体検知管で**水を吸い込んではいけません**。
- 検知管を取り付けた気体採取器を**ふり回したり、人に向けたりしない**。
- 気体検知管と気体採取器は**同じメーカーの物**を使用する。
(ガステック製と光明理化学工業製(北川式)に互換性はありません。)

測定時間

酸素	二酸化炭素 (高濃度)	二酸化炭素 (低濃度)
2分	1分	1分

